



陵雲だより

～おもしろい学校づくりで考えて行動する子供の育成～

旭川市立陵雲小学校



合い言葉は『やる気をもって きらきらぐんぐん 取り組む子供』486名の笑顔の子供

旭川市立陵雲小学校 校長 甲斐信太郎

4月7日、本年度の学校生活が始まりました。67名の1年生、7名の転入児童を含めて486名の子供たち、12名の転入職員を含めた教職員53名でのスタートです。

今年の重点目標は、『自ら進んで、考え判断して行動できる子』です。今年の学校のめあては、次の2点です。「やる気を出すこと」と「みんなで力を合わせること」です。自分事として取り組み、友達と力を合わせる陵雲小っ子のよさをもっと引き出せるように、昨年度よりも友達と協力したり考えを高め合ったり、認め合ったりする力や態度の育ちを求めることが全校共通のテーマです。

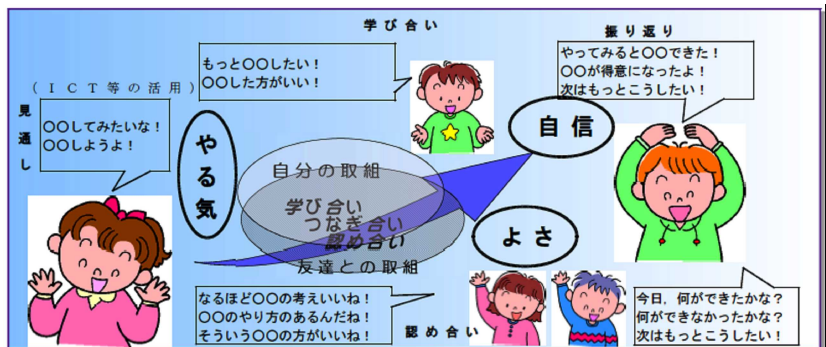
今後、学校だより等で少しずつ詳しく触れたいと思います。学び合いや認め合いを通して、子どもたちの自信を一層高め、生き生きとした陵雲小っ子の笑顔のために、保護者や地域の皆様の期待にお応えできますよう、今年も教職員全員で指導の充実に当たります。本校教育への温かい御理解と御支援を本年もよろしく願いいたします。

■年度の重点目標

自ら進んで、考え判断し行動できる子

令和2年度の取組では、子供が意欲や主体性の育成に向けて学校一丸となって教育活動に取り組み、子供たち同士が相手の立場を認め合い、互いに考えを高め合おうとする態度が見られるようになりました。

令和3年度は、「主体的な学びづくり」に焦点を当て、分かる授業づくりに力を入れることに加えて、仲間とともに思いや考えを出し合い、お互いの考えを認め合う授業づくりを工夫します。この協働性に加えて、自分への自信や自己有用感を高める教育を推進します。子供たち一人一人が自分の思いや力を出し合って、生き生きと楽しく学び、成長できるように教職員一同全力を尽くしてまいりますので、よろしくお願いいたします。



どの教室でも「安全・安心な学級づくり」を目指してスタート

～まずは、子供の安全安心が第一です！！～

陵雲小のストロングポイントは、①「真面目に頑張る」子供たち ②「温かい気持ちで」子供たちの育ちを願い、学校に協力して下さる保護者の皆さん ③「熱意をもって」指導に当たる教職員の3点だと、日頃から感じています。

「子どもが友達とともに屈託のない笑顔を浮かべ、友達とともに育っていく学校」が私の強い願いです。幸いなことに、学校アンケートの結果では、「学校が楽しい」と感じている子どもは97%でした。保護者は95%でした。また、「努力すること」をいとわない子供が多いのが、陵雲小学校のすばらしい特長です。

基礎学力・体力を身に付ける指導、ルールを守る態度、学校や家庭での生活習慣指導は昨年のように取り組みます。とりわけ、本校の問題の一つは、家庭での生活リズム「夜ふかし」「携帯やゲーム、TVの時間が1日に1時間を毎日超えるけれど、勉強や読書をしない」等は、各家庭と力を合わせて改善していきたい課題です。

また、今年も「いじめが起きない」ように、「不登校の子どもが生まれぬ」ように、学校全体で真剣に取り組んでまいりますし、善悪の判断を正しくできる子どもを育てる指導を続けてまいります。しかし、

成長過程にある幼い子どもたちですから、けんか、いさかい、トラブルが起きないとは言えません。本校では、子供の話や悩みをじっくりと聞くことをベースにして、トラブルの原因や経緯を子供とともに考えたり、どうすれば解決できるか、二度と同じようなことが起きないのかを相談するなどして、子供自身の心の解決力を育てることも基盤にしています。ですから、家庭で心配なことに気付いたならば、すぐに担任に相談したりしてほしいと思います。相談が早ければ早いほど、出口への道が幾通りもつくれます。学校と家庭との連携の面でも充実させたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

令和3年度陵雲小学校グランドデザイン

【学校教育目標】 「強く明るくやりぬく子」 強く: 進んで学び伸びようとする子 明るく: 豊かな心とたくましい身体の子 やりぬく: よく考え正しく判断し実行する子
【学校経営方針】 「チーム陵雲（児童・教職員・保護者・地域）で、学校力向上」を目指す
【重点目標】 「自ら進んで 考え判断し行動できる子供の育成」 ～子供向け合言葉「やる気を出して《きらきらぐんぐん》取り組む子供」～

	学び合い 【知識・技能】 《重点策》	つなぎ合い 【思考・判断・表現】 《重点策》	認め合い 【学びに向かう姿勢】 《重点策》
	(E) 学びを実生活に結ぶ授業づくり (G) 一人一人の発達を促す連携づくり (H) 教育の最新動向に対応する体制づくり	(A) 支え合いやりがいのある仕組づくり (C) 心豊かで感性を磨く情操づくり (D) 元気に生き生きと活動する健康づくり	(B) 他者のよさを認め合う仲間づくり (F) みんなが笑顔で生活できる環境づくり
	□学力向上に向けた取組	□自律や主体性の育成に向けた取組	□健全な心身の育成に向けた取組
学習	○授業展開の工夫・充実 ・問い（見通し）ときらぐんタイム（振り返り）の工夫 ・バランスのとれた導入・展開・終末 ・終末の充実（定着と発展、新たな学び） ・ICTを活用した授業づくり	○主体性を育てる指導の継続 ・達成感を味わわせる指導	○学びの保障 ・陵雲小スタンダードの定着 ○家庭学習の充実 ・自学力を育む自主学習の定着
道徳（心）		○教育相談の充実 ・個を把握し、豊かな関わりをもたせる教育相談 ・学校や家庭の暮らしの改善	○道徳教育の充実 ・主体的に考える道徳の授業
体力			○全校で取り組む体力向上の推進 ・新体力テストの経年変化の蓄積 ・体育館を屋外での活動の奨励
自立活動	○コミュニケーションスキルの定着	○特別支援教育の充実 ・個々の実態の把握、他者とつながる自立活動の計画的な実施 ・安心の場の確保	○協働性の土台作り ・共に活動を創る集団（学級）づくり
生活基盤	○基礎・基本の確実な定着 ・分析結果及び改善策の共有と学び直し ・読書の推進		○5つの「あ」の定着 ・委員会活動との連動 ・成長の度合いの振り返り
コロナ対応	○コロナ禍での学びの保障 ・状況に応じた授業時数の確保 ・不登校傾向児童の指導の重点化 ・状況に応じた学習の指導と評価 ・状況に応じた家庭と連携した家庭学習等の見取り	○コロナ禍での心のケア ・コロナ感染症への理解と対応 ・児童の心身の健康状態の把握 ・状況に応じた家庭との連携 ・不登校傾向児童への支援 ・児童虐待への対応	○コロナ禍での感染防止対策 ・通知や衛生管理マニュアルに基づく対応 ・3密を避ける学校生活 ・学校内の環境づくり ・学校の組織的なサポート体制

【重点取組事項】

陵雲スタイルの授業構築 ○「問い」「終末（きらぐんタイム）」の充実 ○ICTを活用した授業の充実 ■全国学力・学習状況調査 各教科平均正答率 全国平均以上 ■はっかいどうチャレンジテスト 各教科平均正答率 全道平均以上	基本的な生活習慣の確立 ○5つの「あ」の定着 ○「陵雲小新しい生活様式」の指導徹底 ○朝読書の継続（10分間の確保） ■月別生活目標 達成率 85%以上	家庭学習の定着 ○めやすの時間（学年＋10分）の徹底 ○家談、上川スライド30の奨励 ■めやすの時間 達成率 70%以上
居場所づくり ○休み時間の児童との共同 ○不登校傾向児童のアプローチの充実 ○学年を超えた人間関係づくりの工夫 ■アンケート「教職員は子供の話をよく聞き、共に活動している」 肯定率 70%以上	いじめ問題への対応 ○アンケート及び教育相談の充実 ○いじめ防止集会の開催 ○情報モラル教育の充実 ■アンケート「いじめは許さない」 肯定率 100%	運動の日常化 ○「縄跳び」「持久走」の実施 ○走力の向上等、体育での補強運動の充実 ○体育館を屋外での運動、遊び活動 ■新体力テスト 合計平均得点 全国平均以上
学びの保障 ・少人数指導の推進と知識技能の確実な習得 ・ICTを活用した陵雲スタイルの授業づくり ・感染対策を徹底しながら協働的な学び合いの実現 ・家庭学習・読書の習慣化	心のケア ・「陵雲小 新しい生活様式」、手洗いの習慣化 ・毎日の健康チェック、検温、消毒等の学校体制 ・教育相談・カウンセリングの実施 ・学級担任による信頼関係の確立、声掛けと傾聴	

【家庭・地域との連携】
 ・学校からの積極的な発信（通信、HP等）
 ・参観日の持ち方の工夫
 ・アウトメディアの取組

【中学校区での連携】
 ・共通学習ルールの定着
 ・各部会の積極的な交流
 ・アウトメディアの取組（児童会・生徒会を含む）

GIGAスクール構想～1人1台端末と校内学習体制について

以前、「旭川市立小・中学校の ICT 活用について」という保護者向け文書を配付させていただきました。その説明資料として、学校だよりを通して、保護者の皆様にお知らせいたします。



これからの社会を生きる子どもたちにとって、機器や情報の適切な取扱いを学ぶ機会は必要不可欠です。これから学校では、端末を活用した授業を進めます。学校のこれまで行ってきた人と人との触れ合う授業のよさを生かすためにも、効果的に無理なく ICT を活用していきたいと考えておりますので、GIGA スクール構想の実施プランに御理解と御協力をよろしくお願いたします。

これから子供たちが使用するタブレット端末は、陵雲小学校を卒業（転出）までの間、旭川市から無償で貸し出されます。学校で使用する上で端末に係る個人の費用負担はありません。子供たちには、使用期間中大切に使うよう指導していきます。

授業での ICT の活用については、インターネットを利用した調べ学習をはじめ、話し合い活動や習熟に応じたオンライン学習支援システムを利用するなど、健康面に配慮しながら、授業の目的を達成するためのツールとして使います。

導入されたタブレット端末は、Apple 社の「iPad」です。また、今年度は導入当初ということもあり、学校のネットワーク環境を利用して、遠隔で端末のアプリケーションの追加や設定等を行うことが多いことから、当面は端末は学校で使用するものとし、家庭学習に活用するための端末持ち帰りについては、今後検討されることとなりました。

「iPad」に入っている主なアプリケーションにつきましては、下の記載のとおりです。

今後、学習活動に必要なアプリケーションを、教育委員会等から追加や変更が行われていきます。



主なアプリケーションについて

iPad には主なアプリケーションとして、次のものが入っています。

Google Chrome (ブラウザ)	NHK for School (アプリ)	Pages (ワープロ)	Keynote (スライド)	iMovie (動画編集)
Scratch Jr (プログラミング)	Microbit (プログラミング)	Mesh (プログラミング)	Youtube (動画サイト)	Cookpad (調理)
Zoom (Web 会議)	Google Classroom (課題管理等)	Google Meet (Web 会議)	Google Earth (地図)	Google Drive (データ保存)
Google スプレッド シート (表計算)	Google ドキュメン ト (ワープロ)	Google スライド (スライド)	Google 翻訳 (翻訳)	e ライブラリ (学習教材)

授業では、1日中、端末を使うわけではなく、これまでの授業に加え、ツールとして「iPad」を活用することになります。資料の「ICTを活用した学習場面例」を御覧ください。

学習スタイルについては、これまでの授業から大きく3つに分けられます。教員が教材を提示したり、説明するなどの「一斉学習」、問題を解いたり、自分の考えをまとめたりする「個別学習」、グループでの話し合い活動や協働で作品を作成するなどの「協働学習」の3つです。

学習者用ツールのアプリケーションとして、情報を共有できる「クラスルーム」やワープロ、表計算、プレゼンテーションソフト、保存領域のあるドライブなどを無償で活用できます。

ICTを活用した学習場面例

※参考：「教育の情報化に関する手引（追補版）」（R2.6月 文部科学省）

学習スタイル	分類例	活用例
一斉学習	1 教師による教材の提示	・画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用
個別学習	1 個に応じた学習	・一人一人の習熟の程度等に応じた学習
	2 調査活動	・インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録、整理・分析
	3 思考を深める学習	・シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習
	4 表現・制作	・マルチメディアを用いた資料、作品の制作、推敲をしながらの長文作成
	5 家庭学習	・端末の持ち帰りによる家庭学習
協働学習	1 発表や話し合い	・グループや学級全体での発表・話し合い
	2 協働での意見整理	・複数の意見・考えを議論して整理
	3 協働制作	・グループでの分担、協働による作品の制作
	4 学級の壁を越えた学習	・遠隔地や海外の学校等との交流授業

1年生の保護者の皆様には、後日、学習者用ツールの説明と、アカウントに登録する際に氏名が必要なことや、個人で作成した作品やデータを保存することもありますので、学習者用ツールを利用に関する同意の協力について文書でご案内いたします。1年生の使用は2学期から予定しています。

学習者用ツールについては教員も利用しますが、成績情報等の個人情報には保存しないこととしております。また、児童生徒が利用する場合も個人情報の保護や肖像権の配慮、情報モラルの指導を行います。

最後に、非常時の端末の貸出しについてです。感染症や災害等の非常時に臨時休業又は出席停止等により、やむを得ず学校に登校できない際に、保護者の希望により、家庭学習で利用することを目的に端末と付属品の貸出しをすることになりました。また、「iPad」はWi-Fiモデルのため、家庭にWi-Fi環境がない場合は、モバイルWi-Fiルータも合わせて貸し出します。貸出しの詳細に当たっては、希望のある保護者の方へ個別でご案内しますので、学校までお問い合わせください。